



4年ぶりに行事が復活 収穫祭：登山



猛暑の夏から、11月になっても、まだ暖かかった今年の秋。コロナとインフルエンザの流行と季節の移り変わりを感じるまもなく、冬の到来となるのでしよう。コロナの脅威から少し解放され、今年は行事が復活しましたので、お伝えします。

今年には宮前区の稗原地区で農園活動を開始して、10年の節目を迎えました。農園と2つのグループホーム見守って下さる地域の方々、快く招いていただいた岸井オーナー、開所にあたり尽力下さった、松井隆一氏、その他多くの皆様の支えで今日まで続いて来ましました。

皆様ありがとうございました。

はぐるま

地域への感謝を伝え、はぐるまのことを知ってもらい、楽しんでもらうために、2019年以来となる「収穫祭」を11月4日に行いました。近隣の方々、仲間たち、ご家族の皆様がゆっくりと集い、楽しみ、語らえるお祭りとして続けていくための実施方法を模索する中での開催となりました。はぐるまの仲間たちが日ごろ仕事としてしていること、土曜日活動で頑張っていること、それらを伝え、楽しみ、地域の方々や仲間たちが同じ畑の上で共に過ごすことの意味を深めていきたいと思います。

太鼓の音が鳴り響き、歌声が聞こえ、食べ物匂いが満ち、畑の土に触れ、野菜を採る。久しぶりに様々な人たちが集うことの温もりを感じられる1日となりました。その中で、仲間たちが色々な売り場に顔をだし、子供たちが走り回り、手伝い、助け合う姿がみられました。

芋ほり体験 たくさんの子供さんが参加しました



はぐるまの会を発信すること、感謝を伝えること、交流すること、これからの収穫祭で実現していきたいことにはまだまだ至らないこともあった今年の収穫祭ではありましたが、これからも続いていくみんなの「収穫祭」に向け、また1年、仲間たちと楽しみ、汗をかいていきます。

新井 多佳夫

NO.121

2023年12月1日

社会福祉法人
はぐるまの会
広報委員会

川崎市多摩区管
馬場1-19-24

TEL
044-946-1308

調布の花火大会 9月24日

みらぼの屋上から

みらぼの設計段階から、屋上は花火が見えるはずなので、その日は屋上を開放し、近隣の方たちと花火のイベントができるといいなど楽しみにしていました。

予想通り、前を遮る高い建物がないので、大輪の花火を見ることができ、迫力のある音を、近隣の方・仲間など50人近くの方たちと、軽食をとりながら夏の夜のひと時を楽しみました。

仲間自治会は、玄関先でハーブソーセージ・飲み物・ポップコーン・かき氷のミニ屋台を出店し、道行く人に販売をしました。

帰り際には「また来年呼んでね」「いい場所ですね、ありがとうございます」と声をかけて頂きました。

みらぼの活用は、これから地域の方たちと創っていく、名前の由来通り「みんなの未来を創るらぼ」となっていくことを期待します。

高木 綾



記録的な暑さだった夏もすっかり終わり、2か月前の花火の様子がとても前に感じられます。今年、コロナ禍を経て行事が復活し、嬉し、楽し、忙し、の日々となりました。はぐるまの会は4代行事のうち、登山、収穫祭が無事に終わり、ほっとひといきというところで。1年が瞬く間に過ぎ、年末年始の休暇の過ごし方を、仲間自治会を交えて、考えています。

現在、旧第1作業所跡地を活用して中期計画の策定を行っています。2024年度に計画の確定、2025年度に着工、2026年度に運用開始を目指しています。現段階での計画に対する意見交換会を、みらぼにて、12月8日（金）に行います。ご案内が届いているかと思えます。ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください。

広報委員会 編集担当 本岡

日帰り登山

今年の登山は三頭山へ、みらぼのグループと農園のグループと大きく2つの班に分かれて、日帰りでのぞみました。グループを2分するという新しい試みに、職員会としても登山に関わる実行委員としても初めてチャレンジしました。いざ行事の準備を始めてみると、様々みんなの山歩きの練習を組まなければならぬ、山歩きのための装備も今年初めてそろえる仲間がいる、登山靴が劣化していてポロボロ・・・などです。

日帰り登山当日は、みらぼは雨天、農園は打って変わって快晴という、これも山の氣候らしい2つの山の表情を仲間たちは体験することができました。「目的地にいけなかった」「雨でも行けてよかった」「農園は景色も見られてよかったけど、もうちょっとゆったり山歩きたかった」「サーブエリアで面白い物エリアに突入している仲間がいた！」など、仲間の実行委員からの振り返りを聞くと、仲間たち一人ひとりの今回の登山行事の印象や言葉とは聞けずとも仲間の行動から読み取れる「想い」を見ることができました。今回の日帰り登山を通じて、次回の日帰り登山

計画に向けて再確認したことは、一つ目に

「体力的・身体的に課題を持った仲間たちにも感動が味わえる活動であること」

二つ目に「仲間たちからは『みんなで行きたい』という要求があること」です。

登山となるとどうしても「頂上で広大な景色を見る」というようなイメージがあると思います。目的地に向けて仲間たちは歩行練習を何カ月も前から取り組むことになるのですが、このような課題を持った仲間たちが「やりたい！がんばりたい！」と思えるような「目標設定」がとても重要となります。

また、仲間の実行委員の振り返りの中で、次回に向けた展望を聞き取りしてみると、「みらぼと農園ごちゃ混ぜのチームを作ってやるのが面白そう」と、「みんなと一緒にいくこと」に対する期待と願いが読み取れました。次年度以降の計画はこの二つを満たすことのできる準備が大事になります。仲間の要求と日々のがんばりの「発表の場」を保障するために職員一丸となれるように、次年度に活かしたいと思います。

今回の登山のまとめは「はぐるま登山だより」として年内の製本を目標にしています。そこには仲間たちの思い思いの作文もありますので、皆様ぜひご覧いただけたら幸いです。

石澤幸樹

10/5 農園組 晴天
日差しがキラキラ

山の空気をいっぱい吸ってきました



10/4 みらぼ組 小雨の中 出発

青空の下、たくさんのお客様の前で、そして、プロのギター（海藤さん）の演奏で大きな声で歌い上げ、踊る仲間たちきっと忘れられない1日になったことでしょう。



太鼓クラブ里空さんのご指導のもと
笑顔で堂々と太鼓を叩く仲間たち



昨年退職し長野に移住した
瀧島さんから
お便りが届きました

はぐるまの会の皆様

お久しぶりです。お元気でしょうか？ 今年も残すところあとわずかとなり、慌ただしい日々を過ごされていることと思います。10月には久しぶりの日帰り登山に行かれたようで（仲間がメールで教えてくれました）仲間たちの悪戦苦闘している様子が目に浮かびます。私の住む小諸市はいつの間にか秋が終わって、先日の初雪で浅間山がすっかり白く染まり、こたつとストーブが欠かせない季節になってきました。

私は学校で野菜栽培を学びながら、自宅で育てていた水稲栽培も、先月ようやく稲刈りが終わりました。とても美味しいもち米が収穫できたので、皆様にもお裾分けしたいと思います。仲間たちの活動にお役立て頂ければ幸いです。

来年はうるち米も作る予定なので、新米が獲れたら送りたいと考えています。それでは皆様 寒い日が続きますがお体に気を付けてお過ごしください。

そのうちフラット仲間の顔を見に遊びに行きたいと思います 印刷

瀧島 亮